

## プラス一の仕事

過日、教え子が家に遊びに来てくれた際、「プラス一の仕事」について種々歓談した事でした。

彼は現在ある種の事業をしていますが、とても順調です。楽しみで、張りがありません。と嬉々として語ってくれました。景気が必ずしもよくない当世で、順調です。楽しみです。張りがありません。という彼の話をよく聞いてみると、他人より少し違った仕事への取り組みをしている事に気がつきました。

彼を含むクラスの子供達に私が話した事はこんな事でした。

何事によらずプラス一が大切、プラス二は兎角長続きがしない。プラス一の積み重ねが進歩であり喜びとなる。課せられた仕事にのみ留まっている限り進歩はない。仕事は喜びでありたい。それは又創造であると；私達が仕事をしたと充足感に浸る時は大抵の場合、主体的に取り組みプラス一の仕事が出来た時に味わうものです。予定した事が出来ない時は苛立ちを感じ、予定した事が出来た時は安心し、プラス一の仕事をし遂げた時は満ち足りた思いにひたるものです。プラス一は量だけでなく質的なものも含まれましょう。

『欲張ったプランを立てずに着実に仕事をし、そしてプラスの仕事を見付けます。』という彼のことにばに頼もしさを感じ、また昔を懐かしく想い起した一時でもありました。